



「愛校の森」誕生
 移し植えられた日から、すでに、
 木々の幹の中を
 一つに溶け合って流れるものがある。
 それは、
 ここに学んだ人々の熱い思いと、
 ここに学ぶ者たちの高らかな鼓動。

ああ、
 クロガネモチよ。
 ヤマモモの木よ。
 ばくらに 根を張ることを教えよ。
 空いっぱい枝を広げることを教えよ。
 森となることの偉大さを教えよ。

昭和五十五年一月一日
 編集・発行
 岡崎市教育委員会

(愛校の森に遊ぶ一穂石小)



何か忘れられている

— 教育随想 —

前田とみ

もう十年も前のことであろうか。私は奈良県のある教師と語り合う機会を得た。その頃は中学校の一教師として三年生の進学指導に頭を悩ましていた頃でもあったのでその苦衷をうったえたのであった。四十を半ば過ぎたであろうその教師は柔らかな口調と、如何にも慈愛に満ちたまなざしでこう語られた。

「私にも随分苦労はある。しかし私の苦労はあなたのそれとは比較にならない苦勞なんですよ。こう前おきされながら次のように語られた。「実は私は今精薄児を担任している。私の一日一日、それはこの子たちが、どうかして一人でオシッコができるようになります様に」と祈りつづける毎日ですよ。」と

私は驚いた。そんな子ども達がいるの

だろうかと。氏は教師となつてはじめて受け持った学級の中に重度の精薄児がいたという。二年間の勤務を終え転勤となり教え子の家庭へ挨拶廻りのため訪れた。が相憎両親は不在でただその子だけが留守番をしていた。勿論その子は重度の精薄、言葉は何一つ通じない、だがその子どもに向かつてこう語りかけた。「おい先生はもうよその学校へかわつていくんやからナー おまえも元気でやれよ。」と。その言葉が子どもには全く通じていない事は明瞭である。だが一瞬、顔色はかわりその目には涙さえ光っていたのが見られたと言う。話せない、書けない、西も東も全くわからないその子の両眼に光る涙をみた時、あ、人間はどんな子ども

— とう強く感じたという。

「僕がその後この障害児教育の虜になつてしまったのは実はその子の涙だったんです。ここ迄一息に語られた氏の両眼にも光るものがあつた。私はその時、その先生から受けた異様なまでの感動は、今日もなおこの胸から離れない。

はからずも私は五年前から精薄児と自閉症児の教育にたずさわる事になった。全く未知の分野であり、一日一日が驚きと、とまどいの連続であり寝てもさめてもこの子どもたちの事を忘れるひと時すらなかつた。だがこの五年間に私が得たもの、そしてこの子ども達から教えられたものは実に大きくそして貴いものばかりであつた。

日本の教育は、世界の水準を抜いているかも知れない。しかし、もつともつと視野を底辺にむけてほしい。殊に私共の特担の中に居る子ども達はその社会の人々からもそして周囲の教師からも忘れられ勝ちである。先にも一寸ふれたが私は奇しくもこの子達が人間とは何か、そして教育とは何かを如実に示唆し無言のうちに語りかけてくれているように思われてならない。私がこの子たちの教師であろうとは夢にも思えない。ただ教師生活第一歩においてこれらの教育にあたつていたならば私の教育観は一変していただろうと思う時、過去の教員生活が惜しまれてならない。

(松阪市立阿坂小学校教諭)



カリフォルニア・コネクション

五十樓 伊久子

カリフォルニアの夏は、雨がほとんど降らない。

絶えず庭で水をまいている姿が目につる。しかし、空気が乾いているので、まことに過ごしやすい。

当然、日本の夏と違って、食欲減退など起こるところか、ますます増進する。

三十八日間のうちの半分は、カリフォルニア州エルサリートのサンフォード家に滞在した。サンフォード氏は、もう六十歳をすぎ、私がパン三切れをゆっくり食べ終わると、ようやく一切れを食べ終るといったスローテンポ。しかし、こど甘いものになると、そのスピードは、私の力ではどうしようもない。

夫人は糖尿病で、はかりを使つて、食物のカロリー計算をしなければならぬ体。実際、月曜日の検診の前夜で三日間ぐらゐは非常に厳しいが、あとは甘いものに手がでてしまう状態。

この温暖な生活のせいで、どんなにたくさん食べた後でも、こつてりとしたデザ



— ふるさとの山河 —

甲 山

岡崎市のほぼ中心にあって、海拔六十
四・五メートルの甲山山頂は、六供町三
ツ岩にあり、頂上には、国土地理院の二
等三角点がある。頂上からは町の地形や
風景を鳥瞰できる。またこの山にはサイ
レン塔があり、戦時中には、敵機襲来を
告げる空襲警報が鳴り響いた場所でもあ
った。

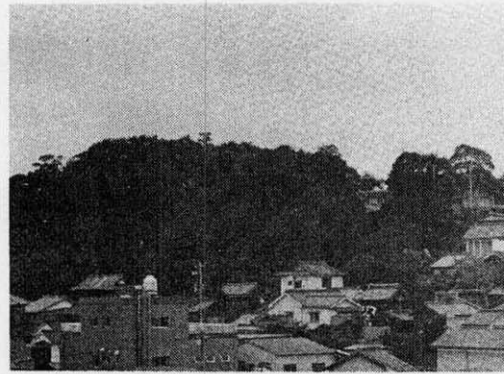
山の中腹には、甲山公園や記念寺・民
家のお墓などがあり、それより上がちよ
うど甲の形をした地形に見える。山の北
側は、なだらかな丘陵でシイやトチなど
の雑木が生い茂り、ジャングルのようにな
っている。

特に、三ツ岩から一本松にぬける道は、
俗に言う獣道であり、狸の洞穴のような
ところもあって、岡崎の中心にいるとは

思えない自然そのままの山である。
山頂附近には「野鳥の森」という立札
があり、たくさん野鳥が木々の枝から
枝へ飛びかう姿を見ることができ、ふる
さとの山として、いつまでも残しておき
たい山である。

さて、この甲山の伝説について紹介し
てみたい。縄文時代の後期、日本武尊が
東征の途中、矢作の里に宿をとった。夢
の中に三人の老翁が現われて「我らは星
なり。尊の御身を守るといふ。」「凱旋の
日には甲をもつて我らを祭り給え。」とい
って、遠く東の山へ飛んで落ち、三つの
大きな石となった。

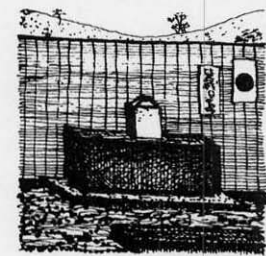
尊はたいへん不思議に思い、帰りに夢
のお告げのように、ここへ甲をうめてこ
の星を祭った。その後、八幡太郎義家も



東征の途中この地に立ち寄り、同じよう
に甲を埋めて武運長輝を祈ったという。
また、現在、甲山のふもとには極楽坊、
薬師坊、護摩堂、甲山八幡宮などしか残
っていないが、甲山は岡崎城の丑寅の方
角に存在し、城の鬼門となる関係で甲山
のふもとには、甲山寺や数多くの坊があ
ったといわれ、当時は一山十二坊を有し、
家康は甲山寺に寺祿二百五十石を与え、
明治維新まで栄えていたといわれる。

甲山は、市の中央に位置しており、あ
れだけが山という感じがする。山は神聖
で、尊いものである。地面が硬く、くず
れることもなく、三十年も前に町を出て
行った人が帰ってきてても、
「もとのままで、もとのままで。」
と喜ぶことのできる山にしておきたいも
のである。

(梅園小 権田武臣)



(比島戦没者の碑—カリラヤー)
(カットは筆者)

一トが食べられる胃になってしまった。
それ以来、体重が増えることはあつても、
減る様子がない。(六ツ美中)

フリーピン墳墓

勝田 斉

戦後三十五年。八月十五日を知らない
人が増えた。同胞が骨を埋めた地も年々
風化してゆくが……。

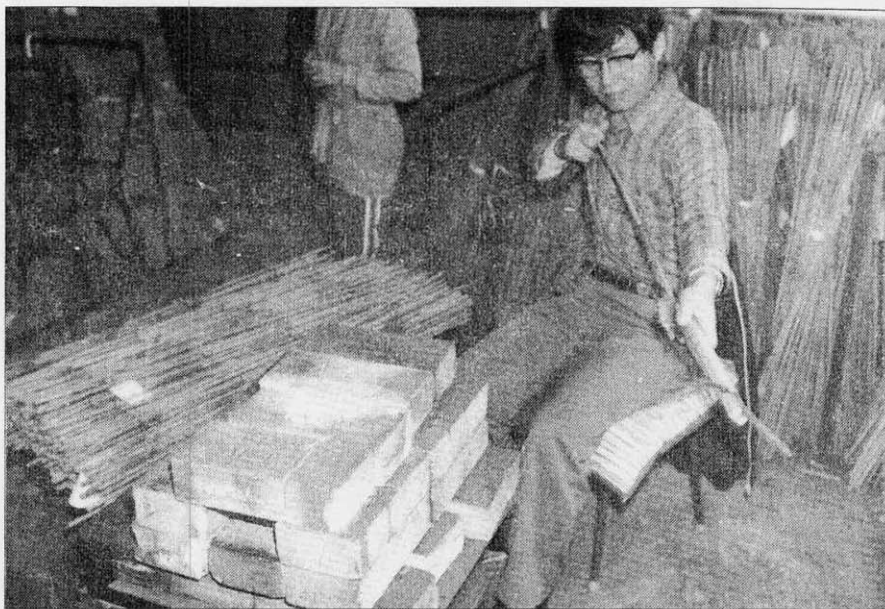
野分雲八紘一宇亡父の声
戦友の見え隠れする芒波
おとうさま祖国の酒よ驟雨去る
おとうさま働哭霧笛自刃の地

カリラヤ日本人霊園
比島戦没者の碑

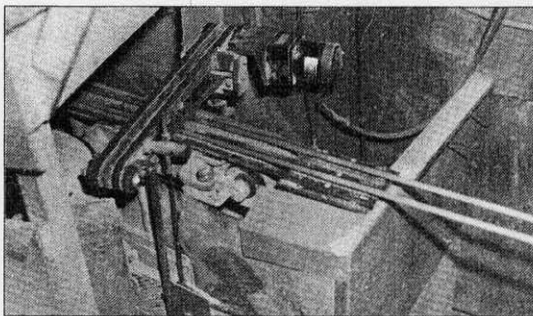
望郷の募る爪跡十字星
芒光る涙ばかりの国歌捧ぐ
燕帰る本間中将自決洞
(モンテンルパ収容所)

英霊へ轟く礼砲晩夏光
(比島無名戦士の碑)
(矢作中)

岡崎再見



矢竹は平針の間屋まで
出向いて買いつける。
一メートルの竹に節は
四つ。一束百本の内使え
る竹は二割しかない。太
さ、重さ、節の位置を厳
密に合わせると一万本に
一組あるかなしかである。
節を合わせて分類し、
火にあぶってくせを直す。
サンダーで表面をけすつ
て太さをととのえ、焼い
て色を付ける。現在では
練習用にジュラルミン製
のものも愛用されるそう
だ。



18 矢を作る

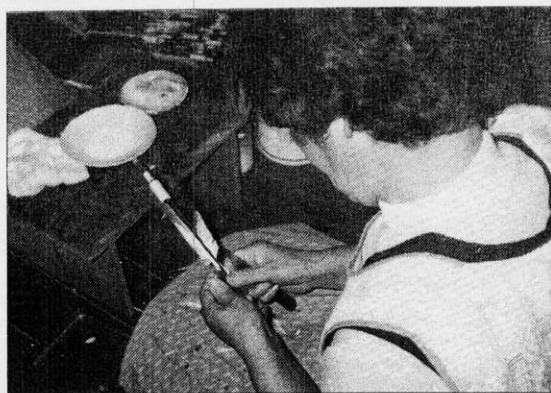
矢の製作工程を取材しようと、全国的にも
数少なく、市内には一軒しかない製矢所を、
先E編集子一戸訪ねた。この製矢所は、小山
製矢所といい、福岡町北居士にある。

弓矢の歴史は古く、先史時代の遺跡から多
くの矢じりが出土することもよく知られてい
るが、最近では弓道ブームで弓矢の需要もかな
りあるといわれる。

矢は通常四節で、根本から、いつけ、のな
か、おっとり、抽すり(羽中節)という。矢
の羽は普通三枚で、この羽によって方向性と
飛翔性能が生まれる。材料の羽は、鷲と鷹を

主に使っているが、尾羽が上物で、手羽はや
や劣るといわれる。現在では中国からの輸入
品が多い。

小山製矢所は現在五代目で、先代までは豊
橋で矢を作っていたが、太平洋戦争中福岡町
へ疎開してきた。創業は江戸時代といわれる。
作業は家内工業的で、家族と近所の主婦を雇
っている。工程はかなり複雑であるが、それ
ぞれパートをきめて作業している。伝統的な
作業であるが、一部は機械化されている。し
かし全体としては、注文者の希望に沿った手
作りの工程を守っている。

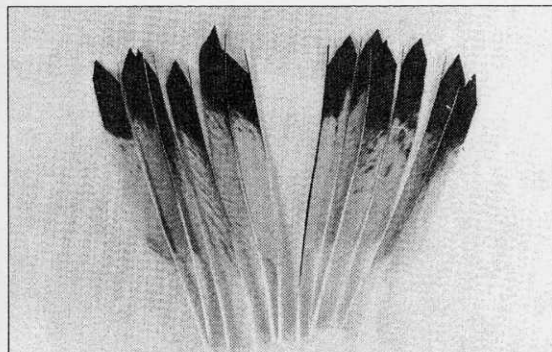
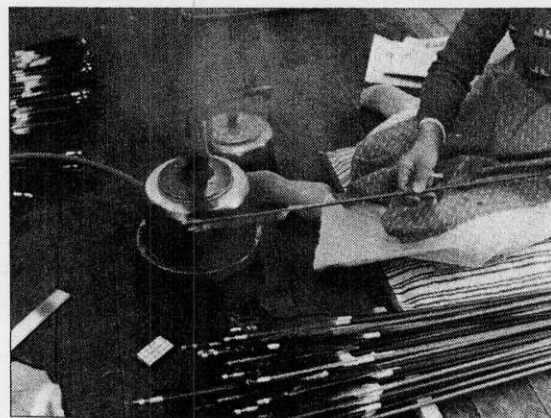


矢羽の材料はワシやタカの手羽や尾羽。ほとんどが中国から輸入する。カラスやニワトリの羽は弱くて代用できない。羽の先からナイフを使って二つにさき、模様を揃えて十二枚一組にする。「テレビで殿様の持っている矢はシチメンチヨウの安物だわ」。プロの目はきびしい。

一本の矢に三枚の羽を、模様をそろえて接着剤でしっかりとはりつける。

羽の根元をそろえて上、下に根太巻き糸の絹糸を巻く。「最近はずいぶんになって、学生でも色の注文がむずかしいのですよ」。手製の糸巻き機で、一本一本巻きつける。

湯気でくせを直し、そりをつけて完成する。最高級品は一組七十万円ぐらいの原価になるといふ。年に一組あるかなしかだそうだ。



教育日々



グループ給食を通して

香山中 河合 美代子

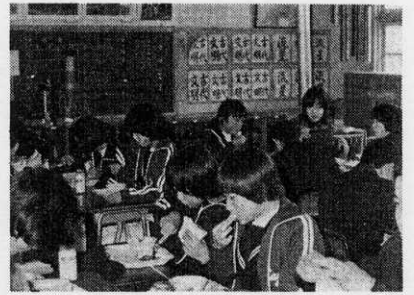
「先生、今日はいっしょに給食食べれるでしょう。」
「わたしが給食持ちに行つてあげるでね。」

一年生の副担任になって以来五つのグループを順にまわり、いっしょに食事をするようになってきました。

担任の先生はもちろんのこと、私も入り、二十八人の生徒と共に食べる給食もまた楽しいものです。

しかし、この会食も二学期になり、学校行事やグループ編成の問題で、しばらく中断してしまいました。時おり、「先生、今日も来てくれんの？ たるいな」「ずるいな」と、こんなことを聞くことも何度かありました。

何かと忙しい時など、職員室



で食べてしまえば、即仕事にかかれるのに手間だな、と感じたことも度々でした。

しかし、いざ教室へ行つてみると、

「私が牛乳びんかたずけるから先生はキャップね。」

など、結構うまくやっている様子を見ると何となくうれしくなつて、がんばらなくちゃと自分に言い聞かせるのです。

養護教諭という職業から、多くは保健室へ異常を訴えてくる生徒と接するのが主ですが、こうして学級で生徒と接する機会に恵まれたことに、大きな喜びを感じています。

近ごろ、精神面で異常を持つ生徒が増えてきています。粗暴でいづっている子でも、教師に注意を受けたりすると、頭が痛

いとか、気持ちが悪いとかいつて保健室を訪れます。

また、クラスの中にならなく受け込めない子も時として病氣らしい顔をしてやってきました。

これらの子は、愛情にうえてゐるのか、一時間ほど休ませ、話を聞いてやれば、すっかり元気になつて出て行きます。

このように何かを訴えてきた生徒はよいのですが、これだけでは片手落ちです。保健室へ来る生徒を待っているのではなく、積極的に働きかけていかなければ、と考えています。

給食を食べながら、勉強のこと、部活動のこと、家族のことなど話に花が咲きます。より多くの生徒を理解するのに、またとない機会です。

まわし読み日記

城南小 深津 武司

子どもの日記を見るのは、子どもの生き生きとした心がわかつて楽しみである。

私は、子どもが各自書く日記とは別に、学級としての、まわし読み日記をつけさせている。

みんなで読み合つて、お互いをよく知つたり、表現の仕方を学んだりして意欲的に書くことを

ねらつてのことである。

六月十七日 A子

今日、お母さんが、むぎをもらつてきてくれました。それで、むぎごはんを作つてくれました。むぎごはんは、ふつうのごはんよりも黄色かった。ふたをあけると、ブーンといいにおいがしてきました。とてもおいしかった。(A子はムギの穂を日記に貼つてきた。)

日記の内容をみんなに知つてもらつたために次のような方法をとっている。

- ・ みんなの前で読む。
- ・ 内容がわからなかつたら自由質問をしよう。
- ・ 質問によつては、あとで修正したり、付け加えたりする。

表記上の誤りは担任が、内容の不明確さはクラスの仲間が先生になるわけだ。

六月二十一日 I男

夜、おふろに入つてからせんぼう機にあつたつていて、弟が風を弱くしました。ぼくがおこつて風を強くしました。そうしたら、また弱くしたので、ぼくはまた強くしました。弟は、今度

は風を中ぐらいにして、ぼくの前に立つたので、一ぱつかるくたきました。弟はわざと泣きました。お父さんにはかつてもらう作せんです。弟がにくらしくなりました。

「どうして、弟とけんかになつたのですか。」
「どこで、なかなかおりできませんでしたか。」

「お父さんにどのように注意されましたか。」

質問はさまざまである。このようにしてくると、書く内容がみんなにわかるように少しずつ変化してきた。

共に喜び、共に考える。こうした心をこの日記を通して育てていきたい。





おしらせ

全国から二百七十名が参加

冬季研修会は、回を重ねて本年で第六回を迎えた。

第一回の県教育センター（額田郡千方町）以来、一流の講師陣、全国からの参加者を迎えて開催されている。

歳末の喧噪をよそに、山紫水明の地少年自然の家での三日間は実り多いものがあつた。

▼期日 12月25日(火)～12月27日(木)
▼講演 「民族の運命と教育」 神戸海星女子大学教授森信三先生
「研究と雑感」 国立基礎生物学研究所教授金谷請夫先生
「職場に生きる主婦の立場」 愛知教育大学講師小谷野錦子先生
「プラトンの教育論」 清風南海高校参事多田義雄先生
「あるビジネスのプロファイル」 日本タッパルーエア岡崎製作所副社

長加藤正男先生／「ことばの教育」お茶の水女子大学教授外山滋比古先生／「私たちの新聞づくり」毎日新聞出版局長牧内節男先生
▼分科会（敬称略）
1、教師の生きがいを考える
▼助言 南海高校多田義雄／県教育サービスマスター富田丈三郎
▼司会 羽根小学校長伊予田参吉
▼提案 六中小杉坂美典／東海中根利枝子
2、子どもの働く意欲を育てる
▼助言 前三島小学校長山内一良／秦梨小学校長河合勝▼司会 連尺小教頭谷重夫▼提案 美合小佐野り子／福岡中二村邦彦
3、子どものことばを育てる
▼助言 お茶の水女子大学教授外山滋比古▼司会 大樹寺小教頭林勝

- ◇「寄贈刊物・資料等」
- ◇「活力ある城南っ子」を求めて 折り折りの記城南小学校
- ◇自ら調べ、磨き合い、生きる学習の建設 細川小学校
- ◇悠紀（記念特集号） 六ツ美中学校
- ◇ねぎらい 深津 詔
- ◇続常磐東のむかし 城殿輝雄

第六回冬季研修会

己▼提案 甲山中加藤一彦／本宿小加藤貞子
4、子どものしつけを考える
▼助言 県教育サービスマスター魚住忠久／関西網沢昌永▼司会 奥殿小学校長柴田正▼提案 矢南小石川春次／城北中清水厚治
5、子どもの体力を伸ばす
▼助言 愛知教育大学天野義裕▼司会 恵田小学校長木藤広二▼提案 井田小鈴木勤三／梅園小飯見紀男
6、女性と職業を考える
▼助言 主婦小谷野錦子▼司会 常磐小教頭浅井千代子▼提案 秦梨小大須賀紀子／南中鈴木尚子
本年は民間企業の方も講師に迎え好評であった。若い先生方が多かったことも特筆できる。



◆音楽コンクール成績

- NHK西三河大会（九月）
最優秀校 六ツ美北部小、岡崎小、矢作中
優秀校 井田小
優良校 広幡小
（葵中はシード校として県大会へ出場）
- NHK県大会（十月）
優秀校 岡崎小、矢作中
優良校 葵中

■CBC（十一月）

- ▽合唱
・最優秀賞 岡崎小／矢作中
・優秀賞 六名小／男川小／広幡小／六ツ美北小／葵中／岩津中／六ツ美中
- ▽重唱
・最優秀賞 葵中
・優秀賞 六ツ美中
- ▽管楽合奏
・最優秀賞 岩津中

◆読書感想文コンクール

西三河審査結果

- ▽小学校入選者
安藤紀子（男川）岡村直美（矢西）福田久子（根石）山本尚氏（連尺）新井康正（緑丘）内藤文美（男川）小原悟（恵田）寿谷正人（本宿）渡辺智晴（井田）小島英嗣（附属）
▽中学校入選者
川上洋子（城北）伊藤久美子（

岩津）加藤由夏（甲山）
なお岩津中の伊藤久美子の作品「乱紋」は優秀賞として県コンクールへ提出。

◆積極的な教育予算措置を要望
新年度の子算編成にあたり、市小中学校長会、教職員組合、PTA連絡協議会では、過日、次のような要望書を関係方面へ提出した。

- ・学校環境緑化に関する事項
 - ・特に「電子オルガン」に関する事項
 - ・特に「子ども」に関する事項
 - ・学校の施設・設備に関する事項
 - ・学校運営に関する事項
 - ・特に「教職員」に関する事項
- ◆教育研究論文応募状況
昭和五十四年度の岡崎市教育論文の応募点数は次のとおり。

- ▽小学校（二九五点）
国語 63 / 社会 26 / 算数 35 / 理科 29 / 音楽 15 / 図工 16 / 体育 17 / 家庭 6 / 道徳 6 / 特活 33 / 保健 13 / 特殊 7 / 図書館 11 / 視聴覚 6 / 統計 1 / 教育工学 1 / 教育一般 10
- ▽中学校（九四四点）
国語 7 / 社会 11 / 数学 11 / 理科 9 / 音楽 1 / 美術 4 / 体育 8 / 保健 4 / 技術・家庭 8 / 英語 6 / 特活 13 / 特殊 5 / 図書館 1 / 視聴覚 2 / 教育全般

鏡 岩



所在地—岡崎市秦梨町

下秦梨のバス停あたりから、西の山をながめると、頂上付近の最近植林したばかりの斜面に何か碑石のような、白く輝く岩塊が目にとまる。

大橋よりやや下から、はじめはゆるい山畑の坂道を、そしてけもの道のような細い急坂を、息を切らせて登ると、やがてこの大岩にたどりつく。さしわたしが一メートル以上、花崗岩の巨大な野づら石が、まっぶたつに割れ、その一方がほぼ垂直な面を谷に向けて立っている。まるで天孫降臨の神話の発祥がこの地であるかの如き雰囲気である。

この巨石は、秦梨をほぼ中心として、八方位に存在する、古代伊勢信仰にかかわる磐境の一つで、岩戸町にある大岩もその一つである。

大昔、人々は降神地であるこの巨石に降りたつた天つ神と、川をさかのぼって来た地の神の二体を祭殿に迎え、祭祀をおこなったのであろう。

この巨石はいかづちの力を借りて古代人がまっぶたつに割ったのであろうか。祭祀を行ったと思われる社は、現在でもふもとに残っており、菽神さまがまつられている。

・カット

城北中

熊谷千恵子

この本を

- 教えることと学ぶこと 林竹二 灰谷健次郎
小学館 ￥ 780
- 映像の演出 吉村公三郎
岩波新書 ￥ 320
- 実践心理学 本明 寛
日本放送出版協会 ￥ 600
- 明日の教育を考える 冬期研修委員会
￥ 850
- 美しさものとの出逢い 草柳 大蔵
大和書房 ￥ 880
- 日本の婦人問題 村上 信彦
岩波新書 ￥ 320
- 子供の喜ぶ40のむかしばなし 村上 幸雄
黎明書房 ￥ 700
- 近きより 全5巻 正木ひろし
旺文社 全巻 ￥ 2,500
- 足の話 近藤 四郎
岩波新書 ￥ 320
- 誤 診 松山 善三
潮出版 ￥ 1,200

お正月にもちは欠かせない。

かつおのだしの利いた、もち菜の雑煮を食べて、ああ新年だと感じる。

火ばちの炭火で焼いた焼きもちは、めつたに口にできなくなったのが残念。

スイッチ一つで、つきたてのもちが食べられるようになった今日だが、やはりもちは正月のものである。

オアシス

しめ縄、正月に家々の玄関や、今では車にまで飾られるが、夏に青刈した稲わらの青さが身上で、古風な玄関にもモダンな新車にも似合うから妙。

この平和な正月ムードに対して、国際情勢はどう推移するであろうか。一層のきびしさの予想にただ平穏を祈るのみ。めでたさも中ぐらいなりおらが春 一茶

あけましておめでと。

凧あげ、羽根つき、こままわし。福笑い百人一首に双六……。

しかし、受験生には盆も正月もない。卒業式、入試、そして……。我がクラスの全員に、楽しい正月が来ることを祈願して初詣。双六で高校が決まったらしいのに「悩める担任のひとりごと」。

双六の賽転がりて袖の上 波津女
正月の優雅な遊びの一瞬をとらえて巧みな句であるが、正月の遊びもすっきり様変わりしてしまった。独楽まわし、追羽子、凧あげなど戸外の遊びがすたれてきたのは、やはりテレビの影響なのであろう。ただ、百人一首が復権してきたのは心強い。